

平成 27 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・北海道花き振興協議会（北海道）

・協議会構成団体

北海道農政部、北海道花き生産連合会、北海道鉢花生産組合、北海道ばら研究会、ホクレン農業協同組合連合会、北海道農業協同組合中央会、北海道芝生産者協同組合連合会、(株)札幌花き地方卸売市場、日本花き卸売市場協会北海道支所、札幌花き園芸株、はまなす花き株、北海道植物株、(一社)全国花卸協会東北・北海道ブロック札幌支部、北海道生花商協同組合、北海道フラワーガーデン協会、北海道園芸商同友会

・主な取組

（1）生産技術向上交流援

①取組内容

- ・愛媛県育成デルフィニウム「さくらひめ」の愛媛県とのリレー出荷による周年安定供給を推進するため、昨年度作成した栽培マニュアルを元に、育苗から採花までの栽培管理方法や施肥の基準、育苗容器の大きさによる品質の違い等について新たに掲載した栽培マニュアルを作成。
- ・「さくらひめ」のブランド化とリレー出荷を目指し、道内産地や愛媛県との意見交換・技術交流を実施。

②取組による成果

- ・技術交流により課題であったダニなどの病虫害対策や新たな施肥方法（Ca葉面散布）などの知見が得られたことから、品質向上、安定生産が見込まれる。

③今後の取組の予定

- ・栽培マニュアルを活用しながら安定生産に取り組むとともに、リレー出荷の実現を目指し、栽培技術の向上や種苗の安定確保に向けて愛媛県との意見交換を実施する予定。

（2）花文化の展示

①取組内容

- ・道産花きの主要品目展示や、ばら・カーネーションの品種紹介などにより道産花きの魅力を発信する「北海道 BEST FLOWER COLLECTION 2015」を 8月 28 日～29 日に札幌駅前通地下歩行空間で開催（延べ 11,000 人来場）。

②取組による成果

- ・道産花きの品質の良さや種類の豊富さを PR とともに、季節にあった家庭での花の楽しみ方の提案を行うなど内容を充実し、前年度を大幅に上回る来場者に道産花きを PR することが出来た。

③今後の取組の予定

- ・来場者から、照度不足や一部の展示物・表示が見えにくいといった意見が聞かれたので、今後、良い状態で展示物を見ることが出来るよう会場の配置を検討し、効果的に道産花きの PR を図る。



愛媛県育成品種「さくらひめ」



「北海道 BEST FLOWER COLLECTION 2015」

平成 27 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・青森県花のくにづくり推進協議会（青森県）

・協議会構成団体

J A全農あおもり県本部、(株)青森花卉等県内 5 花き市場、花キューピット青森支部、フジテレビフラワーネット加盟店会青森県支部、日本フラワーデザイナー協会青森県支部等花装飾 3 団体、(地独) 青森県産業技術センター農林総合研究所、青森市農業振興センター、八戸市農業経営振興センター、青森県農林水産部農産園芸課

・主な取組

(1) 物流の効率化の検討・実証

①取組内容

- 平成 26 年度の県内の作付面積が 156 アールとなるなど、年々増加しているカンパニュラについて、出荷容器の改良による輸送実証を行ったほか、競合産地の荷姿や出荷規格に関する市場調査を行った。（平成 27 年 5 月。（株）南関東花き園芸卸売市場、東京フラワーポート（株）、苦小牧中央花卉（株）、はまなす花き（株））

②取組による成果

- 輸送実証では、出荷容器を水漏れしにくい水受けや、底面を正方形に近い形状に改良したことにより、集出荷時の作業性が向上するとともに輸送中の転倒事故が減少することを確認した。また、出荷容器のデザインの簡素化と形状変更に伴い、資材費と輸送費を合わせて 1 箱当たり 133 円削減できたものの、入り数が 10 本減ったことから、切り花 1 本当たりでは 0.3 円の削減となった。
- 市場調査では、本県のカンパニュラの荷姿・規格とも競合他産地と比較して問題がないことを確認できた。また、関東の花き市場では、近年、長さの短い規格の切花需要が増加しているとの情報を得た。

③今後の課題、取組の予定

- 改良した出荷容器が他の花き品目へ利用拡大できるか検討する。
- 長さの短い規格のカンパニュラの出荷を検討する。



左：新箱 右：従来箱

(2) フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催

①取組内容

- 弘前花き土曜市（平成 27 年 8 月 1 日）、弘前市場祭り（平成 27 年 11 月 29 日）にて、来場者に向けたフラワーアレンジメント製作のデモンストレーションを行った。

平成 27 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

- ・ぜ～んぶあおもり大農林水産祭（平成 27 年 11 月 7 日）にて、来場者に様々なデザインのブーケや花束を紹介した。

②取組による成果、参加者の反応

- ・フラワーアレンジメントの作り方や様々なデザインのブーケや花束を紹介することによって、来場者に新たな花きの使い方や飾り方を提案することができた。

③今後の取組の予定

- ・来場者に紹介するだけではなく、フラワー アレンジメント教室等を併催するなど直接花に触れ作成できるような内容とする。



様々なデザインのブーケ等の紹介の様子

（3）学校・福祉施設等での花育体験推進

①取組内容

- ・日常的に花に接する機会を創出するため、県内の幼稚園、小・中学校及び P T A、老人福祉施設で寄せ植え教室やフラワーアレンジメント教室を開催した。（開催回数 30 回、参加人数 990 人）

②参加者の反応

- ・幼稚園や小・中学校では、最初、花に触れるのを躊躇する子供も見られたが、寄せ植え作業の終了時には花に親しみを感じている様子が見受けられた。
- ・老人福祉施設では、花壇づくりやフラワーアレンジメントを行ったところ、利用者間のコミュニケーションが図られ、リハビリテーション効果もあったと利用者や職員から好評であった。



幼稚園生対象の寄せ植え教室の様子

③今後の取組の予定

- ・花壇づくりやフラワーアレンジメント体験など花に親しむ環境を提供することによって、花を身近に感じ、日常的に飾るようになるなど意識が変化する傾向にあることから、今後とも継続して実施していく。



中学校対象のフラワーアレンジメント教室の様子

平成 27 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・いわて花と緑の普及協議会（岩手県）

・協議会構成団体

岩手県農林水産部、八幡平市花き研究開発センター、全国農業協同組合連合会岩手県本部、株盛岡生花地方卸売市場、岩手県花卉商組合、（公社）日本フラワーデザイナー協会岩手県支部、花キューピット協同組合岩手支部、フラワーネット岩手県支部、NPO 法人 Green Fields

・主な取組

（1）物流の効率化の検討・実証

①取組内容

- ・りんどうのお盆、お彼岸の実需に応じた出荷調整と物流の効率化を図るため、予冷と資材利用による鮮度保持技術を実証。

岩手県農業研究センター（北上市）：平成 27 年 7 ～ 8 月

八幡平市花き研究開発センター（八幡平市）：平成 27 年 8 ～ 11 月



貯蔵 15 日後の状況

②取組による成果

- ・鮮度保持フィルム P-プラス（低温条件で 2 週間程度保存）の鮮度保持効果は期待できるが、品種により差があることを確認。

③今後の課題、取組の予定

- ・りんどう及び小ぎくの実需に応じた出荷調整と物流の効率化を図るため、予冷と資材利用による鮮度保持の実証を継続して実施。

（2）フラワーコンテスト、花文化展示会の開催

①取組内容

- ・県産花きを中心とした新たな需要拡大に向けて、消費者にいわての花を知って頂き、新たな花きの活用法の提案や花と親しむ場を提供するイベントを開催。

開催日時：平成 27 年 9 月 4 日（金）～ 6 日（日）

開催場所：イオンモール盛岡

開催内容：「いわてフラワーコンテスト 2015」出品花きの一般公開

いわての花の紹介（リーフレット配布、各種ポスター展示）

アレンジメントコンテスト

アレンジメント等体験教室（切り花のアレンジメント体験）

花畠をイメージしたブースで国体マスコットと記念撮影 等



お花畠で記念撮影ブース

②取組による成果

- ・本イベントを通じて「いわての花」を普段家庭で飾ってみたいと答えた方は約 95%。（10 代から 60 歳以上まで 90% 以上が同様の回答）

③今後の取組の予定

- ・希望郷いわて国体の開催を契機に、県産花きの需要拡大に向け、県内外の消費者に対し、歓迎装飾等を通じ、いわての花の P R に取り組む。
- ・また、県産花きのコンテスト等を活用し、花と親しむ場を提供するイベントを開催するなど、日常生活において花に触れ合う機会の醸成に取り組む。

平成 27 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・宮城県花と緑普及促進協議会（宮城県）

・協議会構成団体

宮城県園芸協会、宮城県花卉商業協同組合、仙台中央卸売市場花卉仲卸協同組合、仙台生花株式会社、株式会社仙花、株式会社石巻花卉園芸、仙台市経済局農林部、仙台市建設局百年の杜推進部、全国農業協同組合連合会宮城県本部、宮城県農業・園芸総合研究所、宮城県農林水産部農産園芸環境課

・主な取組

（1）花文化展示（フラワーフェスティバル）

①取組内容

県産の花の認知度向上と消費拡大、花き産業の発展及び花に関する意識の高揚を図るため、2月9・10・12・13・14日の5日間を通して、仙台市の各会場でフラワーフェスティバル2016百花繚乱を開催した。2月9日に仙台市情報・産業プラザ「エル」5階多目的ホールで開催したイベントでは花の展示ブースやアレンジ等の体験コーナー、ステージイベント等を行った。

②取組による成果、参加者の反応

2月9日に開催したイベントには1,940人が参加した。フラワーバレンタインのブースには多くの方が集まり、新しい物日のPRに繋がった。また、イベント期間中はテレビ番組で県内花き生産者の紹介を行い、県産花きについて多くの方に知ってもらうきっかけにもなった。

③今後の課題、取組の予定

バレンタインやいい夫婦の日など新しい物日の定着に向けたイベント等を行うとともに、日常に花のある暮らしを取り入れるための取組を行っていく。

（2）花育教室

①取組内容

県内の小学校及び児童館あわせて9か所で花育活動を行った他、小学生親子20組を募集し、石巻市桃生のガーベラ生産ほ場の見学や摘み取り体験、鉢もの施設見学、フラワーアレンジメント教室等の花育移動教室を行った。

②取組による成果

花を栽培する過程を体験し、育てた花を地域住民にプレゼントするなど、地域と連携した花育活動ができ、実施した小学校等からは今後もこのような活動を続けていきたいとの声が聞かれた。

また、生産現場を巡り、花に親しむ花育移動教室についても参加者アンケートで「生産者と直接話ができる、花がとても身近に感じられるようになった。」「家庭にいつも花のある生活をしていきたい。」という感想が寄せられた。

③今後の取組の予定

一度きりの活動では無く、花の育つ過程をより深く学んでもらうため、少数の学校等に絞り複数回の花育教室を実施する。また、多くの親子に花を見る楽しさや花の生産過程を学んでもらうため、今後も引き続き花育移動教室を実施する。



平成 27 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・秋田県花きイノベーション推進振興協議会（秋田県）

・協議会構成団体

秋田県農林水産部、秋田生花株式会社、全国農業協同組合秋田県本部、秋田県花卉小売商業協同組合、秋田県花き生産者連絡協議会、秋田県花いっぱい運動の会、秋田県農業会議、秋田県農業試験場、秋田県花き種苗センター

・主な取組

（1）花文化と併せた国産花きの情報発信

① 取組内容

日本人の挙式が圧倒的に多い米国ハワイ州において、本県オリジナル品種である「NAMAHAG E ダリア」のウエディングイベント（3/22、4名）を実施した。ダリアをブライドメイドに仕立て、新郎新婦にはダリアとともに秋田から結婚式に来ていただき、ハワイで結婚式をするというストーリーで、県出身カップルの結婚式、挙式後のパーティーで装飾された結婚式パーティーの装花に県産ダリアを使用した。



またウエディングイベントに向けて、実需者向けの展示会（11/12、3名）を開催し、ダリアの利用拡大に向けた評価、消費動向の実態や流通上の課題についての調査を実施した。

検疫や日持ち等の課題があったが、来場者はダリアの美しさに驚いており、装飾で使用された花は全て持ち帰られた。ハワイでそのような光景は普段見られないことであり、輸出の可能性は大いにあると思われた。

② 今後の取組の予定

安定した需要が見込まれることから、今後は輸出の実用化に向けて検疫対策、切り前と前処理剤の検討、品種選定、冬季生産量の拡大などに取り組んでいく。

（2）学校・福祉施設等での花育体験推進

① 取組内容

小学生親子を対象とした寄せ植え体験講座（8/8出席者 24 組 51 名）とフラワーアレンジメント教室（11/14、出席者 25 組 55 名）を開催した。



② 取組による成果

草花や緑に親しむ機会をとおして、優しさや美しさを感じる情操面の向上が図られた。出席者へアンケート調査を行ったところ、次年度開催の要望が高く、大きな反響があった。

③ 今後の課題、取組の予定

引き続き小学生親子への講座を開催する他、新たな取り組みとして SNS 等での発信が期待できる高校生を対象としたフラワーアレンジメントの講座を実施する。

平成 27 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・山形県花き振興協議会

・協議会構成団体

山形県 JA 園芸振興協議会花き部会、庄内花き生産組織連絡協議会

日本ばら切花協会山形県支部、山形県鉢物協議会、山形県花木生産者協議会

山形県りんどう生産研究会、山形県トルコギキョウ研究会、

山形生花地方卸売市場、山形県生花商組合連合会

・主な取組

(1) 国内外の需要に対応した生産・供給体制の実証

①取組内容

・本県の主力品目であるりんどうは、県育成の品種の他、生産者による新品种の育成も盛んで、多様な品種・系統があることから、さまざまな用途に活用できる品種として評価を得ている。今後、更なる販路拡大として、海外輸出を検討していることから、需要動向を把握するため、韓国へ試験的に輸出を行い、以下の取組みを実施した。

ア サンプル品のアンケート調査

サンプル品（4品種）を、韓国の卸売業者から約10カ所の生花店等に配布してもらい、アンケート調査を行った。

イ 意見交換・現地調査

現地に赴き、韓国の卸売業者やサンプル品を提供した生花店との意見交換を行うとともに、生花店等での消費動向調査を行った。

②取組による成果

・サンプル品の評価として、国産りんどうは、韓国産と比べ高品質であるとともに、多様な色・形があることから、韓国の生花店において、円換算で160円以上/本の販売（日本国内市场平均単価約50円/本）が見込める。（韓国ではアレンジやウェディングで使うことが多い。また、韓国産のりんどうは青色が多いため、青色以外の需要が高い）。

・韓国の輸入業者からは、利益に流通コスト（通関、関税、運送費）を加え、日本国内での取引価格（日本国内市场平均単価約50円/本）の2～2.5倍で韓国のバイヤーに渡ることを踏まえ、韓国のバイヤーに円換算で140円/本で入れば販売は可能であるとの意見を得た。

③今後の取組の予定

・平成28年度からは、輸出時に最も問題となる病害虫対策（薬剤、処理時期）及び輸出に適した切り花の品質保持対策を検討し、輸出に係る実証に取り組む予定。



▲サンプル輸出したりんどう



▲韓国の生花店における需要調査

平成 27 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

(2) 物流の効率化の検討・実証

①取組内容

- ・ダリアの花傷みの少ない出荷方法を検討するため、株式会社大田花きで、出荷荷姿の調査と出荷資材の検討会を実施するとともに、その結果を踏まえた新しい出荷資材（※）を作成し、シーズンを通して試験的に出荷を行った。

（※）従来の出荷資材の特徴

- ・輸送中の花の揺れを抑制する方法が中パットのみであった。
- ・中パットの支えは、段ボールの左右側面に 1 箇所ずつ設けていたが、輸送中に落下することがあった。



▲従来の出荷資材

新しい出荷資材

- ・ダリアの花の下を紐で結束して、揺れを抑制出来るように、紐を掛ける穴を 2 段階設けた。
- ・段ボールの左右側面に、穴を空けて太いゴムを掛ける構造にし、輸送中の揺れを抑制した。
- ・中パットの支えを 2 箇所から 4 箇所に増やした。



▲新しい出荷資材

②取組による成果

- ・新しい出荷資材による出荷を実施したところ、多様な花型、花径、茎径でもフレキシブルに固定することが可能となり、花傷みが軽減され、クレームの発生率も低くなった。また、市場からも、「明らかに昨年度よりもクレームが減少した」と評価を受けた。

③今後の取組の予定

- ・平成 28 年度においては、新しい出荷資材の使用方法を生産者等に出荷目揃会等で周知を図るとともに、新しい出荷資材に全面的に切り替えて出荷を行う。

平成 27 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

(3) 学校・福祉施設等での花育体験推進

①取組内容

- ・県内置賜地域の小学校 4 年生 2 クラス 65 名を対象に、県産の花きを使用したフラワーアレンジメント製作を実施し、以下の学習を行った。
 - ア 身の回りで生産されている花き、季節の花きを知る
 - イ 切花を長く楽しむための方法を学ぶ
 - ウ フラワーアレンジメント製作で美的・芸術的感覚を磨く
 - エ 感謝の気持ちを伝える優しい心、人と人の繋がりを尊重する心を育む
- ・具体的には、「2 分の 1 成人式ありがとうフラワーアレンジメント製作」と題して、県産の花きを使用したフラワーアレンジメント製作を実施し、出来上がったアレンジメントを、メッセージカードを添えて児童から両親にプレゼントするもの。
- ・切花を長く楽しむための基礎知識や地元産の切花に対応した水揚げ方法等を掲載した「花日持ち保証ガイドブック」を配布した。

②取組による成果

- ・花育実施後のアンケートでは、「これからもフラワーアレンジメントを作つてみようと思いましたか？」の問い合わせに対する回答として、「必ず作りたい」が 65%、「機会があれば作りたい」が 35%となり、「これから、特別な日にはお花をプレゼントして気持ちを伝えたいか？」の問い合わせに対する回答として、「伝えたい」が 98%となる等、花きへの関心を高めるきっかけとなつた。

③今後の取組の予定

- ・「2 分の 1 成人式ありがとうフラワーアレンジメント製作」を置賜地域の全市町村で実施したいと考えている。同じような取り組みが続いているので、次年度については切り口の違つた花育を行う予定。



▲花育の実施状況(山形県置賜地域の小学校)

平成 27 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・福島県花き振興協議会（福島県）

・協議会構成団体

株式会社福島花き、株式会社あいづ園芸（卸売業者）、福島花卉商業協同組合（花き小売業者組織）、福島県鉢花生産者協議会、JA全農福島園芸部（生産者組織等）、福島県農林水産部園芸課（行政）

・主な取組

（1）学校・福祉施設等での花育体験推進

①取組内容

目的：児童の豊かな人間性を育むため、県産花きを活用し、花を育てる機会を提供することで、花と緑に親しみ、心のやさしさや豊かさを醸成することを目的に開催。

対象者：県内の小学生及び幼稚園生を対象に、全 18 回（17 校）にて実施した。県産花きについて、いけばなの由来や四季の行事についての講義を行うとともに、県産花きを活用したいけばなやフラワー アレンジメント体験を行った。（参加者計 1,118 名）

②取組による成果、参加者の反応

子供たちは花に親しみ、楽しみながら自分だけの作品を作り上げていた。また講師と交流を深めながら、花の知識のみならず、花関連の仕事等についても学ぶ機会となった。アンケート結果では「楽しかった」、「またやりたい」、「花が好きになった」、等の声が多く聞かれた。

③今後の課題、取組の予定

平成 27 年度は、地域を限定して実施していたため、今後は県内全域で取り組めるよう、実施地域を増やして実施できるよう調整する。



写真 1 いけばな体験の様子

（2）生産技術向上交流「福島県りんどう生産振興交流会」

①取組内容

・岩手県八幡平市花き研究開発センター所長を交え、本県のりんどう産地の生産者・関係機関等と意見交換することにより産地交流を促進し、技術向上及び県内りんどう産地の生産振興に資することを目的に開催。参加者は班に分かれ、班ごとに設定した課題について、各参加者とともに、センター所長が意見を交わした。（平成 27 年 11 月 30 日開催。生産者・関係者等約 100 名参加）



写真 2 意見交換会の様子

②取組による成果

・参加者からは「刺激になった」、「他産地の話が参考となった」という意見が聞かれ、生産者にとって技術研鑽の場となるとともに、産地の交流が図られた。

③今後の課題、取組の予定

・交流会を通して、各産地の課題や共通の問題などが出されたことから、これらの意見を本県のりんどう振興施策等に反映させる。